



千葉ユニットセンター 6歳質問票集計結果から

空気の中に入ってくるものは？

前はタバコについての集計結果を紹介しましたが、空気の中には、ほかにもいろいろな物質が混ざっています。今回はふだんの生活で使用する物の中から、空気に関係するものについて、ほぼ回収が終了した6歳質問票の結果から調べてみました。

(2022年1月4日時点の千葉ユニットセンターのデータに基づく暫定的な結果です)

暖房器具

居間(リビング)やお子さんの寝室で、どんな暖房器具が使われているかを調べました。

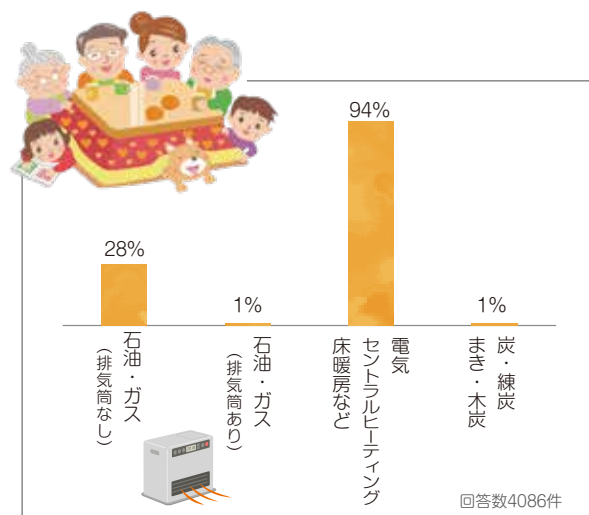
電気暖房器具などはほとんどの家庭で使っており、石油・ガスを使うストーブ・ヒーターは、28%の家庭で使われていました。

暖房器具の選び方は、燃料代、温まりやすさ、安全性、デザインなど、いくつかポイントがありますね。家の構造で決まっている場合もあります。

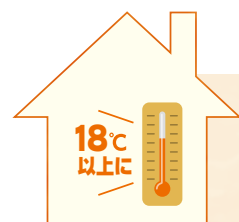
室内の空気という点で考えると、石油・ガスを使うストーブ・ヒーターや暖炉などは、燃料を燃やすことによって燃焼ガス(窒素酸化物、二酸化炭素など)やPM2.5が発生します。

家庭で一般的に使われる排気筒がないタイプでは、これらの燃焼ガスやPM2.5が室内に排出されています。ガスコンロや瞬間湯沸かし器、喫煙でも、同じことが起こります。

部屋を使っていない時は暖房を切ったり、設定温度を下げたりすると燃焼ガスなどの発生も少なくすることができます。



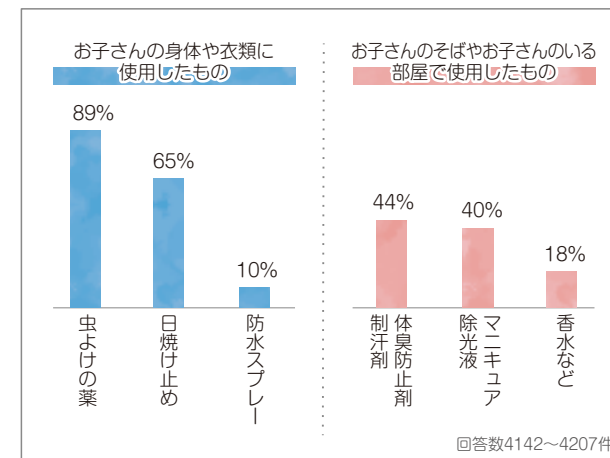
PM2.5	大気中に浮遊する粒径2.5マイクロメートル以下の小さな粒子。呼吸器や循環器に悪影響を与える。
窒素化合物 (NOx)	二酸化窒素など。のど、気管、肺などの呼吸器に悪影響を与える。
二酸化炭素	濃度が高いと眠気、倦怠感、頭痛、めまいなどが起こる。



日本では室温が低い住宅も少なくないようですが、健康のためには、適度に暖房を使うことも大切です。世界保健機関 (WHO) では、寒い季節に健康を守るために室温18℃以上とするよう強く勧めています。

吸い込みに注意！

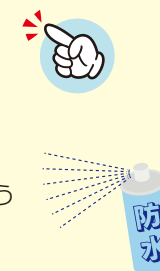
お子さんの身近なところで使われているものでも、空気の中にその成分が混ざってくるものがありますね。



虫よけ、日焼け止めはローションタイプもありますが、スプレーは顔にかかったり、吸い込んでしまったりすることがないように注意しましょう。防水スプレーは、吸い込むと、はっ水性の樹脂が肺にくっついて、咳や息苦しくなるという事故も起きています。使用上の注意を守って安全な使い方をしましょう。

防水スプレーを使うときは

- 必ずマスクをする
- 家の中で使わない
- 風上から風下に向かって使う
- 子どものそばで使わない
- 顔の近くでスプレーしない



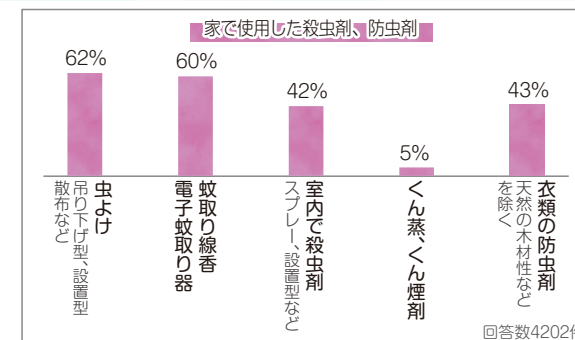
家庭用の殺虫剤、虫よけ

殺虫剤には、家庭用、農薬として使われるもの、衣類用防虫剤があります。



※体に使うタイプの虫よけは「忌避(きひ)剤」と言って「殺虫剤」とは別の成分です

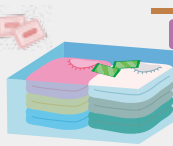
夏になると活躍する家庭用の殺虫剤は、ピレスロイド系という比較的安全性の高い殺虫成分が使われています。蚊取り線香や吊り下げ・設置タイプの「虫よけ」も殺虫剤です。正しい使い方をすれば、健康に悪い影響を及ぼすおそれはないと考えられていますが、大量に吸い込んで体調が悪くなる事故も起きています。



農薬として使われる殺虫剤



衣類用防虫剤



衣類の防虫剤は、ピレスロイド系のほか、ナフタリン、パラジクロロベンゼンなどが使われており、眼、鼻、のどの粘膜を刺激したり、気分が悪くなったりすることがあります。低濃度でも長期間吸い続けることによってシックハウス症候群など健康に影響を及ぼすことがあります。必要以上の量を使わないようにして、できるだけ、すき間のないボックスなどに入れましょう。

ニオイが気にならなくても、空気中をただよって体に入ってくるものがたくさんあります。家の中で使う場合は、しっかり換気しましょう。

お子さんが大きくなると自分で使う機会も増えてきます。使い過ぎや間違った使い方をしないように注意しましょう。